

平成 30 年 5 月 5 日

国土交通大臣
三重県知事
伊勢市長
および報道関係各位



伊勢・御幸道路 (みゆきどうろ) の灯籠について
笠石 (=火袋 (ほぶくろ)) をレプリカに交換する提案

皇學館大学 現代日本社会学部 伝統文化コース 准教授 (一級建築士) 岩崎 正彌
三重県伊勢市神田久志本町 1704 番地
TEL : 090-3271-5486 FAX : 0596-22-6431
m-iwasaki@kogakkan-u.ac.jp

拝啓 新緑の候 皆様におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、本学および本学部の教学にご理解とご支援を賜わり、誠にありがたく存じます。

さて、標記の件について。死亡事故を受けて、一層の安全確認と、危険な笠石の撤去、という対処を打ち出した段階で、私は 4 月 19 日に鈴木英敬三重県知事へ書簡をお送りいたし、撤去した笠石の代わりに軽い材料で作ったレプリカを設置することを献策申し上げておりました。

その後、国・三重県・伊勢市が「全灯籠の撤去」を決定したとの由。安全第一とはいえ、灯籠がこれまで伊勢の景観に果たしてきた遺産に対して不遜であり、いかにも拙速で、過剰反応ともいふべき処置と存じます。以下のことを要望させていただきます。

1. 全灯籠の撤去工事の、中止。特に石柱は残すべし。
2. 丁寧な調査と、丁寧な議論による、景観保持と安全確保の検討。
3. 上記の策定に基づく、灯籠の補修、および軽量化の実行。

今、少しずつ灯籠が撤去されていくことに、多くの国民の心は、長年に親しんできた何か大切なものが失われていくことにとっても残念な思いをいたしているように思われます。しかし道路管理者の「人命第一」との理由の前には、その声を挙げにくく感じていることと拝察いたします。

そこで、私は、笠石 (=火袋 (ほぶくろ)) を軽い材料で作ったレプリカに置き換えていくことを、広く国民の皆様に訴えていきたく存じます。その一歩として、実際に原寸大の笠石笠石 (=火袋 (ほぶくろ)) のレプリカ模型を作りましたので、ご紹介を申し上げます。

笠石の幅は 670mm、奥行は 670mm、素材は白い発砲スチロール (将来は、型を起し、大量生産にてコストを抑え、然るべき被膜塗装を施す予定です)。ガーデン用のソーラーライトを 2 基分、組み込みました。昼間は蓄電し、日が暮れると自動的に約 7 時間以上の (白熱灯色 LED による) 連続点灯をします。合計 1.2kg です。

伊勢の御幸通に設置されている灯籠は、昭和 30 年代に全国の崇敬者が、天照大御神の鎮座まします伊勢の皇大神宮の参道を、浄明の明かりで照らし、神宮を護持し、神国日本の永遠の繁栄 (=彌栄 (いやさか)) を祈らんとし、篤志をもって捧げたものであります。灯籠の

形は、ひとつひとつ、祠（ほこら）を象（かたど）った姿をしています。一つ一つに精霊が宿るお社（やしる）の姿の灯籠によって、魔を祓って遠ざけて、聖なる都市、神都に相応しい景観が創られてきたのです。これらの灯籠の全てが撤去されるということは、景観のみならず、国家の国民の伊勢神宮への崇敬心をないがしろにする行為と存じます。

では、景観と安全を両立させる方法はあるのか。それが私の「笠石（＝火袋（ほぶくろ））をレプリカに交換する提案」の目指すところです。これであれば、人が死ぬほどの危険は生じません。石灯籠に込められた祈りを、継承させていただくことができます。しかも常夜灯としての本来の使命も果たすことができるのです。

然るべき調査により、危険と判断される笠石を撤去されることはまだしも、それでも石柱は残していただきたく存じます。今後は、神都伊勢の景観を愛する方々と、神々への崇敬の心篤き方々と知恵と力を結集して、レプリカを作成して、石柱に載せていく所存であります。

また、石の笠石についても、然るべき安全対策を研究し、提案させていただきたく。

私の提案は、灯籠を寄進をされた先人の方々の天照大御神さまへの祈りも護り、神都伊勢の景観を守り、国民の心も慰め、国・県・市をも救うことになろうかと存じます。

この件について、岩崎正彌は率先して陣頭に立って、この解決への責任を果たす覚悟であります。報道関係者の各位におかれましては、広く国民の皆様はこの提案の趣旨をお伝えいただきたく存じます。国道・県道・市道を管理される各位におかれましては、灯籠の国家における文化的、歴史的、精神的な意味を十分にご理解いただき、解決にむけた丁寧な調査と議論を、そして慎重な改善を実施いただきたく存じます。「禍い転じて福となす」機会となりますように祈っております。

敬具

